

行仙宿、東京大学学生の体験学習サポート

◇実施日 8月30日(土) 晴

◇参加者 沖崎吉信、阪口雄二、鳥羽真司、濱野兼吉、湯川一郎、

畑林秀味、大江加予子・徳子、清水八重子、梶野照雄、

村吉光夫、高橋桂太、由井洋三、藤原裕一郎 14名

新宮市役所・文化振興課・南課長補佐、小林係長、職員、山口、岩口 4名

東京大学；職員4名、学生10名(内訳は後記) 14名

今年7月3日に市役所の山口君から電話があり「今年も8月30日に東京大学の体験学習を行仙宿で実施したいので、面倒を見てほしい。学生10名と職員を加えて総勢20名位の予定だが、今年は新宮市の姉妹都市であるアメリカのサンタクルーズ市の子供たち10名位が同行するかもしれません。」とのことだった。

我々のメインの活動拠点である行仙宿は、修験者や登山者だけのものではなく、子供たちの学習や企業の研修の場としても広く利用していただきたい。今回の体験学習も、東京大学であることと、その趣旨が、熊野参詣道や大峯奥駈道の世界遺産において、歴史的伝統文化、自然などを体験的に学び、地域の人々と交流することによって視野を広げることを目的とし、地域が抱える諸課題について考察し、地域に貢献する可能性を探る。としていることから、即引き受けることにした。



丸太、杭を先行荷揚げ



東大生が到着



登りだす

8月上旬より準備を始めた。行仙宿での予定に行仙岳北面の段差補修材の運搬を組み入れた。



法螺貝の練習



マキ割りを体験



村吉さんが杭や丸太を登山口まで運びこんでるので、モノレール

終点から行仙岳までを運んでいただく事にした。我々の普段の活動の一端を感じてもらえれば、と考えた。

また、藤原君が行者装束で参加してくれるので、勤行の導師をお願いして、法螺貝の練習も今回初めて加えた。大江さん、清水さんの参加で昼食時の味噌汁も提供可能になった。これらに加え、いつもの薪割りやストーブの着火もメニューに組み入れた。概要決定後、2度市役所を訪ね、打合せを重ねた。

当日は大江、湯川車には登山口に直行してもらい、濱野、鳥羽道場の沖崎車は出発地のパレスホテルに向かった。学生らが乗っているマイクロバスの運転手さんから「初めての道なので、先導をお願いしたい」言われ、午前7時35分、先頭を走り出した。宮井大橋から不動トンネル経由で、対向車も殆どなく、北山村やR425の狭小区間もすんなり通過できた。浦向でトイレ休憩をし、予定より少し遅れて登山口手前の広場に到着した。

登山口まで少し歩かなければならないので、濱野、鳥羽のお二人に先導していただき、沖崎は車で登山口に向かった。登山口でモノレールに荷物を積み込み、山彦メンバーに今日の予定を説明。梶野君と村吉さんは杭や丸太をコマツハウスへ運び上げていた。

5分ほどで学生たちが着き、今日の学習予定や注意事項を説明し、登り始めた。畑林秀君は小屋に向かわず、補給路の補修を一人で行い、七曲付近をきれいに整備してくれた。沖崎、梶野がモノレールで登り、コマツハウスで荷物を降ろして全員の到着を待つ。10分足らずで先頭の学生が着いた。

事前に「体力がありそうな学生を選抜しました」と聞いていたが、その通りで到着が早い。これなら資材荷揚げも大丈夫だと判断して、

杭や丸太を運んでいただいた。

行仙宿で10分ほど休憩し、お堂で勤行を行う。お堂の幟やマキ割りの準備は、先行したメンバーが済ませてくれていた。



昼食



行仙岳に向かう



行仙岳山頂で

藤原君導師で勤行を始める。勤行を終え、法螺貝の練習開始。「吹いてみませんか？」と希望者を募ると、ほぼ全員が手を挙げた。少し音が出ると歓声と拍手が起こり、えらく盛り上がる。半数ほどが法螺貝を吹き終え、マキ割りの体験に移った。一昨年の学生もそうだったが、全員が意欲旺盛で果敢にマキ割りに挑んでいた。若干へつぱり腰もあり、見ているこちらがハラハラする場面もあったが、丸太が割れる度に大きな拍手もあり、この作業が一番盛り上がったようで、印象に残ったようだ。

午前11時半になり、小屋で昼食を摂る。食後は座学、沖崎より山彦の紹介や小屋・奥駈道のこと、またこれからの課題などの話をした。午後は行仙岳まで荷揚げハイキングを行う。今日早く下山す

る湯川君は、鳥羽さんと二人で丸太を持って行仙岳に先行した。学生諸君は背負子に興味があるようで、杭を背負子に括って荷揚げしてくれた。大江さんお二人と濱野君に小屋の片付けを任せ、鳥羽さんはこの日2回目の荷揚げで行仙岳まで往復された。40分程で行仙岳に着く。途中、笠捨山や継ノ窟などを梶野君が説明してくれた。行仙岳北側の自然林を見て「大峯奥駈道は昨日まで見てきた熊野古道と随分違う」と、率直な感想も聞こえた。捲き道経由で行仙宿に戻り、小休止の後下山した。



お堂前、全員で

下山準備

下山

事故や大きなトラブルもなく終了し、ホッとしている。学生諸君からも、よかった、いい経験ができた。との声を頂いた。

(記：沖崎)

東京大学

秋山聡 (副学長・教授)

斎藤智 (本部職員)

山崎将志 (本部職員)

右田美奈 (本部職員)

吉田莉々 (統合文化研究科)

森本智子 (教養学部)

小林聖治 (経済学部)

石田龍樹 (教育学研究科)

前川名月実 (工学系研究科)

谷口幸弥 (学際情報学府)

楠川晨也 (教育学部総合教育科)

大石菜月 (教養学部)

比嘉龍聖 (農学部)

ジャヤビクラマ幸一 (教育学研究科)

行動タイム

補給路登山口 09:40→10:30 行仙宿 12:55→13:40 行仙岳→14:35 行仙宿→15:40 補給路登山口